

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2393000050
法人名	医療法人 豊和会
事業所名	グループホーム プルミエールさなげ
訪問調査日	平成 20 年 9 月 30 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 3 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2393000050
法人名	医療法人豊和会
事業所名	グループホーム プルミエールさなげ
所在地	愛知県豊田市浄水町原山1-54 (電話) 0565-44-2400

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1-11-16		
訪問調査日	平成20年9月30日	評価確定日	平成20年12月3日

【情報提供票より】(20年9月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	11 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 6.5 人

(2) 建物概要

建物構造	平屋	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	600 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9月15日現在)

利用者人数	15 名	男性	2 名	女性	13 名
要介護1	8 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	66 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	平戸橋医院、南豊田病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑の木々が豊かな市街地にあり、母体法人の設置する老健施設に併設された2ユニットのグループホームである。平屋造りの瀟洒な建物で広い居間は吹き抜けの天井と床暖房の設備で清潔な居心地のよい生活の場となっている。日々の介護では家庭的な雰囲気や大事にし、見守りの支援を目指している。地域との連携が図られており、中高生やボランティアの訪問も頻繁で、母体法人老健施設が主催する夏祭りは地域の恒例行事になっており、300人余の参加者で賑わっている。この施設は状態重度化に際しての受け入れ先にもなっており、家族の安心感は強い。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価は今回が初めてである。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	5月に県の自己評価をしており、今回の自己評価もスタッフ全員で話し合い、気付きの中で、鍵を掛けない取り組みの確認もできた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月毎に開催し、区長、民生委員、地域包括支援センター担当者、利用者、家族の出席があり、活動報告、質問や要望、意見を議題に取り組んでいる。母体施設では、介護相談員の月2回訪問があり、ホームでも6月から入居することで利用者が、安心して暮らせるように取り組んでいる。会議後に家族の交流会が開かれ、出席率も上がっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「さなげだより」をホームページに掲載している。来訪時の面会届けに意見欄を設けたり、ご意見箱を設置したりして家族からの意見や苦情をもらえる体制をとっている。また、家族交流会を行い、意見交換の場も設けている。それらの意見や苦情は、職員全員で共有して速やかに対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	晴れた日には、近所のスーパーへの買い物や、散歩に出かけており、夏祭りは地域の行事と考えている。小、中、高生の体験学習やボランティアとしてのお茶、お花、皿回し、マジックショーや太鼓などが、頻繁におとづれ、利用者の楽しみとなっている。

2. 評価結果(詳細)

取り組みを期待したい項目

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との結びつきの中で、「利用者の立場に立ち、自発性を尊重し、自立した生活を支援していく」との母体法人施設の理念に加え、地域密着型サービスとして、「利用者の残存能力を引き出し、医療との連携を図り、関連の保健、福祉機関とも連携して支援していく」というホーム独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニット事務所入口に掲示し、日常業務に際しては朝・夕の申し送りや日常業務の中で、自立支援に向けて確認しあっている。月曜日の全体朝礼では三分間スピーチがあり、スタッフが順番に発表している。又、入社時のオリエンテーションでも説明している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りは露店も出て、浴衣の参加者も含め、300名余の参加があり楽しみな地域行事になっている。区長を中心に地域の住民もイベントに参加してもらっている。中高生のボランティアの受け入れも行なっている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	5月に県の自己評価を行なった。今回の評価に際しても職員全員で話し合い、鍵を掛けない取り組みがグループホームの大きな理念につながっていることを確認できた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には区長や地域包括支援センター担当者、民生委員、利用者・家族、職員などの参加があり、ホームの活動報告や参加者からの意見・要望などの検討を行なっている。今回は外部評価に当たって、職員による理念の再確認と介護の実際について確認と見直しが見直しができたことを報告した。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	豊田市介護サービスの資質向上連絡会に参加、毎月第4週月曜日には、市の相談員を受け入れ、職員は、サービスの向上に生かしている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時、運営推進会議などで、利用者の現状を報告、金銭管理は、最初に預かりの依頼書を出してもらい、出納帳でチェック、利用者・家族に原本を渡している。さなげ便りを掲示しているので、ホームページでも閲覧できる。希望者には郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市相談員の受け入れや、運営推進会議での報告、面会届けにはご意見欄があり、意見、苦情などには朱書きで対応、職員全員で運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまでに3人の退職者があったが、異動や、離職は最小限にとどまるよう、管理者は職員とよく話し合い、利用者への影響がないよう配慮している。		
異動					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体施設との合同で年間計画をたて、入社時のオリエンテーションや技術チェックで、技術の向上に努めており、施設内研修で、認知症を理解してから、グループホームに配属される。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国・県のグループホーム協会、連絡協議会に入会し、必要な研修は受けている。次年度は、愛知県で全国大会があり、積極的に参加する予定である。研修会などは、可能な限り仕事として行かれるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は家族と面接をしたり家庭の訪問に行ったりした後、判定会議を行い受け入れの方向が出れば、本人に会い介護計画を作成している。入居後は他の利用者と馴染めるよう職員がサポートしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	それぞれの能力や体調に合わせて、食事作りや掃除等を一緒に行なっている。利用者から漬物の漬け方や畑仕事、掃除の仕方などを学ぶことも多い。また、時には利用者が職員をなぐさめる場面もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人や家族から情報収集したり、日常生活の中で利用者の表情や会話から思いや意向の把握に努めており、常に本人や家族の希望を確認するようにしている。外出したい人には買物を増やしたり、畑仕事を増やしたりしてその人の思いを理解するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らすことができるように本人や家族の要望を聞き、管理者、計画作成担当者等で話し合い、利用者の現状に即した計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎週行なうケアカンファレンスのときに継続が必要か話し合っている。介護計画の見直しは毎月行なっている。その際には本人や家族の希望や要望を聞き入れるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は家族の対応が難しいときには職員が付き添い、情報を家族に報告している。母体の協力を得ながら柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診が月1回ある。その他に本人や家族の希望に応じた医療機関を利用し、納得と安心の得られる対応ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、他の施設か併設の老人保健施設に移るなどの選択肢があり、家族と相談して選んでもらっている。入居時に本人や家族に説明し了解を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護については、利用者や家族に説明して同意を得ている。日常生活の中では利用者を大切に思い、言葉使いや態度に十分注意している。また、高齢者の尊厳についての研修を受け、敬老に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかなスケジュールはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。散歩やレクリエーションなども職員が声をかけて誘っているが、決して無理強いはしていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューも利用者と一緒に考えている。調理、配膳、後片付けなど共に行なっている。職員は利用者と同じ物を一緒に食べながら、食事介助や食べこぼしのサポートをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は希望があれば毎日可能で時間も16:30から20:30と家庭で入浴するような時間帯である。入浴を拒否する人には改めて声をかけたり、体を拭いたり、足浴をしたりして対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴や力を活かす役割をもてるよう支援している。楽しみごととしては、地域交流活動として地域のボランティアによる皿まわし、マジックショー、カラオケなどが行なわれている。毎水曜日はパンの販売に来るので利用者は楽しみにしており、そのときは財布を持って自分で支払っている人もいる。また、入居前からやっている俳句を地域のサークルに通って楽しんでいる人もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物など本人の希望に沿って外出したり、季節ごとに花見などの気分転換の機会を設けている。毎週近くの喫茶店へも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、フロア共に鍵をかけず、見守りを行なっている。家族の中には、鍵をかけて欲しいという意見もあるが、鍵をかけることの弊害を説明して理解してもらっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	3月・11月に消防署立会いの下、避難訓練を行なっている。3月には夜間設定の訓練を行なった。また、グループホーム内で利用者と職員とで火災・地震の対応についての話し合いも行なわれている。施設全体として、米やパン、水など3日分の備蓄もしている。	○	地域の人々の協力は現状では得られていないので、日常的に地域の人や消防署などの関係を深め、地域の機関や住民の協力が実際に得られるような体制について、具体的に検討をすすめることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事、水分摂取量を確認し記録されている。また、利用者の状態に応じて調理方法や形態を工夫するなど、必要な栄養や水分が提供できるよう取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは天井が高く明るく清潔である。玄関には季節の花が活けてあり季節感が感じられるように配慮されている。リビングの飾り棚には利用者の書いた書道の作品が飾られ、落ち着いた雰囲気居心地のよい場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたダンスやイス、テレビ等が持ち込まれ、家族の写真や人形、本なども置かれ、それぞれの生活スタイルに合わせた工夫がされている。花の好きな人はベランダにプランターを置いて、栽培を楽しんでいる。		